平成27年(2015)
阿づまの光
1月号・Januaro

五代教主作 引出黒茶盌 銘「七福神・大黒天」
［ヨルダン土］

題字出口直日

通巻第550号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

首都圏が先駆けのご用を

大本本部長 浅田秋彦

明けましておめでとうございます。本年も相変わりまして、よろしくお願い申し上げます。

「善い事をすればよくなる世を称してミロクの世」というお示しがあります。善きことは、神さまの御心に叶うことです。大本は神さまの経綸によって生まれたものであり、同時に、神さまの経綸を説き知らせるところであり、かつ、神さまの経綸を行うところであります。この説き知らすことは宣教活動のことであり、行うところとは愛善運動を実践することであります。

大本東京本部においては、大本公開講座、大本常設講座、身の上相談・み手代お取次ぎなど、宣教活動を積極的に行っています。また、エスペラント活動、茶道や短歌会、霊界物語拝読会、プランター栽培などは、まさに愛善活動の実践であります。

東京本部の宣教活動と愛善運動は緒に就いたところですが、このことが全国地方機関の本苑・分苑・主会に、ひいては分所・支部にも広く行われることが、神さまの御心に叶う「本物の実践」の姿であると思います。

教主さまは「信徒一人ひとりが、内に自己を、そして家庭を修めつつ、内にも外にも悩める人々に、誠意をもって神さまのみ教えをお伝えさせていただく〝みろくの世への実践〟の時代に、入っていることを強く感じさせていただいています」（平成24年新年ごあいさつ）とお示し下さいました。

神さまのご用は、積極的に、惟神的に、教主さまを中心に和合しつつ、〝みろくの世への実践〟を合言葉に励みましょう。

今月の聖言

みろくの世早や来よかしと祈りつつ
岩戸の開く時を待つかな

出口王仁三郎聖師

神と人

～人は神の子、神の宮～

大本の「霊界観」

霊界というと、一般には死後の世界を連想します。しかし、私たちの住む現界にも、目に見えないものは存在します。他の動植物には自分を守る、子孫を残すなど、本能的に備わった生命力があります。人には感情や理性がありますが、それらを体から取り出して、相手に見せることはできません。が、その存在を疑う人はないと思います。形あるものには必ず目に見えない力、「霊」が宿っていると定義するのが、大本の「霊界観」における根幹です。

霊主体従の法則

人には感情があって、その押さえられない気持ちが、言動に表れることがあります。美しい絵や、感動する映画を観て、思わず涙を流す、何か恐ろしいものを見て、鳥肌が立つといった場合です。この法則を〝霊主体従〟といい、心情が体に影響し、変化を生じるという原理です。

これは感情をもたないとされる動植物にも当てはまります。例えば、ゴキブリをスリッパでたたこうとすると逃げるのは、生命力（霊）がそのようにはたらいているからです。

主神のおはたらき

全大宇宙は原初、霊と体がまだ分かれておらず、力を生ずる前の状態を「大元霊」といい、「天之御中主之大神」、または「主神」といいます。主神は霊系と体系の二柱の神に分かれて御力を発揮され、〝霊主体従〟の法則によって万物を生み育まれたのです。

宇宙創造の力を〝生成化育〟ともいい、その力は統一と調和をもって、万物を進展させます。その活動力こそが神であるというのが、大本の神観です。人類も大宇宙の中で生成化育によって生まれた生命体の一つなので、神の御姿そのままを分霊・分体・分力として授かっています。同様に、自然界の全ては神の断片であると示されています。

一、宇宙の本源は、活動力にして即ち神なり。

一、万物は活動力の発現にして神の断片なり。

（出口王仁三郎聖師）

講師 鈴木林太郎（すずきりんたろう）
（愛善宣教課主事）

大本三大学則

神の実在を証明するのが「三大学則」です。霊・力・体の3方面から事象を考察すると、人為では計り知れない神秘が発見できると説いています。

また、この教えは社会科学、自然科学、哲学といった分野においても、新発見ができるというほど重要なものです。

一、天地の真象を観察して真神の体を思考すべし

一、万有の運化の毫差なきを視て真神の力を思考すべし

一、活物の心性を覚悟して、真神の霊魂を思考すべし

一輪の花を例にこの「三大学則」について、考えてみたいと思います。

私たちは、花の存在を視覚や触覚、嗅覚で確認することができます。よく観察すると、花弁、萼（がく）、雄しべ、雌しべがあり、さらに原子顕微鏡で覗くと、細胞には核、葉緑素、染色体などが規則正しく組織されているのがわかります。

現代の科学では、あらゆる物質の最小単位は原子で、然るべき結合によって、物体が形成されていることは周知のとおりです。

また、生花は造花と違い生きています。根は水分と養分を土中で吸収し、葉は光合成を繰り返しながら、二酸化炭素を吸収し、酸素をはき出します。やがて、実をつけ、種子が子孫を残していきます。これは花のもつ生命力、いわゆる霊性がそうさせているからです。宇宙の本源、天の言いつけに従って、花は花として、その命を全うしています。

「神様がわからないという人に、一本の花を見せてやれ。これでも神様がわからないのですかと…」（出口王仁三郎聖師）

相対性理論で有名なアインシュタイン博士も、「科学を真剣に追究している者は誰であっても、宇宙の法則の中に神の霊が顕在していることを確信するに至る」という言葉を残しています。

神格と人格

人にはそれぞれの性格がありますが、神の場合はそれを「神格」といい、一つは「愛善」です。

愛善の愛ですが、神の愛を人に例えると、親子の愛が一番近いのではと思います。子どもが大病にかかれば、親は一生懸命に看病しますし、「代われるものなら、代わってやりたい」とも思います。これは見返りを求めず、犠牲を犠牲とも思わない無償の愛です。

神の愛は、親子のような限られた範囲でなく、太陽の熱と光のように、分け隔てなく降り注がれます。

しかし、紙きれにも必ず表と裏があるように、物事には善があれば、悪もあります。愛も悪にはたらく場合を「愛善」に対し「愛悪」といい、自己愛がそれにあたります。世のため人のためにすべき事業も、功名心や利益ばかりを求めていては、本物の仕事とはいえません。真理、神理に反することになります。

神格を表す言葉にもう一つ、「信真」があります。これは真理のことで、普遍的な理です。「信真」の反対は「信偽」となります。

日本では、現憲法の前は大日本帝国憲法、江戸時代には武家諸法度など、様々なルールが敷かれました。それらは、とても現代に当てはめることはできません。が、当時は（少なくとも指導者は）、正しいと信じていたのです。時代や環境によってルールは変わりますが、神が定めた理は、宇宙創造以来の真理であって普遍的です。これが信真であり、人の享（う）くべきものなのです。

宗教の「宗」の字は、「ウ」冠に「示」と書き、「ウ」は宇宙を表します。真の宗教とは、宇宙の真理を教示し、政治経済、自然科学、教育など、全ての分野において、正しいことは何かを示す役割があると、聖師は説いています。

善を愛し、真を信じるのが天国で、逆に悪を愛し、偽りを信じるのが地獄といわれています。重要なのは人の本心が、愛の善、信の真であるかということです。私たちは本心を外面で隠すことができますが、内側に悪や偽りがあれば、真理から外れ、不自然さを引き起こし、ひいては世の中がよくならないのです。いくら能力や努力があっても、愛と信にもとづく道徳心や倫理観がなければ、結果として周りに迷惑をかけてしまうこともあります。

「意志は、愛の情動より起こり、智性は、信の真より発生するものである。ゆえに愛のなき信仰は、決して人格とみなすことはできない」（出口王仁三郎聖師）

一霊四魂の活用

人の霊は動植物などと比べて、精功、精妙で霊性が高いので、「精霊」または「霊魂」といいます。その「精霊」「霊魂」は一霊四魂から成りたっています。「一霊」とは「直霊」であり、神からの直接内流で、先天的に備わっています。〝良心〟〝反省心〟などがそれにあたります。

「四魂」のはたらきには「荒魂の勇」「和魂の親」「幸魂の愛」「奇魂の智」があります。忍耐力をもって立ち向かう勇猛心や、和と尊んで治める親和心、生き物への愛情、向上を求め学び智慧を得ること、これらは万物の霊長といわれる人間が、神から特別に授かった心性、神性なのです。

ただし、一人ひとり表情が違うように、「四魂」のバランスも様々です。「荒魂」が表に出ていて、何事に対しても積極的な人もいれば、生き物が大好きという「幸魂」の強い人もいます。

人は〝霊止〟とも表すように、本来は神心を授かっています。大本で〝人は神の子、神の宮〟と教えられている所以です。しかし、「愛悪信偽」となって、はたらきが神心と正反対になる場合がありますから、時として感情をコントロールすることが求められます。

その〝ものさし〟といえるのが、「省みる」「恥じる」「悔いる」「畏れる」「覚る」という「五情の戒律」です。

いくら勇気があっても、行き過ぎて「恥じる」ことがなければ、争いが起こります。また「悔いる」ことがなければ、人間関係などの調和が崩れてしまいます。

「五情の戒律」で特に大切といわれるのが「省みる」ことです。日々に自己を省みながら、「一霊四魂」を正しく活用することが人の本分であって、そう願うのが神への祈願ともいえます。

大本教旨

大本教旨は〝神と人との関係〟を端的に示しています。

「神は万物普遍の霊にして人は天地経綸の主体なり、神人合一してここに無限の権力を発揮す」（教旨）

人は、神を畏れ敬い、真理を覚ることで、正しい力が発揮されるのです。

よく〝人事を尽くして天命をまつ〟といいます。これは「私はこれだけ頑張ったから結果をください」ともとれます。

大本では、「三大学則」や「教旨」などで、神と人の関係が明確に説かれていますので〝天命を知って人事を尽くす〟といいます。

今、自分の置かれた環境は、すべて神慮に基づいたものであると覚り、努力することが、本物の力を生むのです。

「世界人類の平和と幸福のために苦難を意とせず、真理のために活躍し実行するものは神なり」（出口王仁三郎聖師）

聖師は、神意に叶った行動をとれば、人は神にもなれると説いています。

掲載文は、平成26年9月17日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座」講演録の要旨です。

東光苑月次祭

東光苑月次祭・市杵島姫命例祭は12月14日、午前10時30分から執行され、３３０人が参拝した。

祭員は関東教区各主会および、関東圏在住の青年部員、伶人は宮咩会関東支部、大本神諭拝読は、東京主会の日下文世さん、添釜は神奈川主会が担当した。

祭典後、浅田秋彦大本本部長が挨拶に立ち、教主さまの南米宣教90周年並びに（新）愛善堂完成10周年記念大祭、大本インテルナツィーア開設10周年記念祭典等のご親教の様子と、道院台湾総主院で開かれた「世界道院・紅卍会全体会議」について報告した。

次いで、「平成27年度教団方針」にある「みろくの世への実践」８項目を、タテの活動（宣教活動）とヨコの活動（愛善運動）に分けて説明した。「外へ広く、内へ深く」み教えを伝える①宣教活動と平行して、②芸術文化③福祉④生命倫理⑤食・農⑥エネルギー・環境⑦平和⑧エスペラントの愛善運動を、個人から機関グループ、ひいては地域社会へと広げて欲しいと述べた。

大勢の参拝者のもと執行された

立派に祭員を務めた

その後、全体合唱に移り藤本光総務管理課長のギター伴奏で、愛善歌「栄光」と「花は咲く」、「ふるさと」が斉唱された。ご神前は師走の慌ただしさを忘れる、朗らかな雰囲気に包まれ、参拝者の清々しい歌声がこだました。

優しい音色と歌声で一体となった

大本公開講座

第１４２回大本公開講座『出口なお・出口王仁三郎の世界を語る２０１４』は、12月17日午後７時から、港区新橋の航空会館を会場に、浅田秋彦大本本部長が「真理の『幸せに生きる主義』～宇宙の呼吸・宇宙のリズム～」と題して講演した。参加者は20人（内、一般８人）。

講座では、神と人の関係について説明し、「清潔・楽天・進展・統一の４つの主義は相関連し、時代や場所で変わることのない普遍の真理である。これを実践し、心身ともに天地に呼吸を合わせることができれば、天国的生活に入れる」と結んだ。参加者からは、「神の意思は四大主義そのものであると理解しました。（男性・一般）」等の声が寄せられた。

運命は命を運び、宿命は命を宿す

今年も開催します

大本公開講座

開催日時　毎月第３水曜日　午後７時～８時３０分
場　所　航空会館（港区新橋１丁目１８－１）
参加費　１，０００円

大本常設講座

開催曜日　毎週、月・水・金曜日
　　昼間の部　２時～３時３０分
　　夜間の部　７時～８時３０分
期　間　平成２７年１月１４日（水）から１２月２１日（月）
場　所　大本東京本部・８階ミーティングルーム
参加費　無料
内　容　月曜日　『神と人の関係』
　　水曜日　『霊界の実在』
　　金曜日　『人生の目的』

※ 毎月第３水曜日の夜間の部、９月１１日（金）の夜間の部、９月２１日（月）の昼・夜の部共、休講します。

大本東京本部ホームページ

諸祭典・行事をはじめ、大本公開講座、大本常設講座の情報など、詳細はこちらから。ぜひ、アクセスしてみてください。

URL http://oomoto-tokyo.com

東光苑祭典・行事予定

1月

1日（祝・木）午前7時執行
新年祭

1日～3日（木～土）
年賀　1日　9時30分～17時
　　2日　9時30分～16時30分
　　3日　9時30分～16時

7日（水）午前10時30分～午後3時
東光苑七草粥

11日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・成人式式典

19日（月）午前10時30分執行
聖師毎年祭（67年）

21日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
講題　激動の中に見えてきた明るい未来
　　～日本と世界は今どこに向かっているのか～
講師　藤原直哉（株式会社あえるば会長・経済アナリスト）

2月

3日（火）午後6時30分執行
開教１２３年節分大祭遥拝祭
二代教主・四代教主聖誕祭

8日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・豊年祈願祭・市杵島姫命例大祭

18日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
講題　ことむけやわす
　　～医療における対話から協働の関係へ～
講師　加藤眞三（慶應義塾大学看護医療学部教授）

21日（土）22日（日）
教本2級・3級認定講習会